PRESS RELEASE

彩の国さいたま芸術劇場ダンス・ラインナップ 2018-2019

イスラエル・ガルバン
『*LA EDAD DE ORO* ー黄金時代』

天才ダンサー登場
変貌するフラメンコを目撃せよ

2018年 10/27（土）15:00， 10/28（日）15:00 開演
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

彩の国さいたま芸術劇場

イスラエル・ガルバン
『*LA EDAD DE ORO*－黄金時代』

「フラメンコ界のニジンスキー*」と評されるフラメンコダンサーのイスラエル・ガルバン。伝統的なフラメンコにそのルーツを持ち、天才的なテクニックを武器に、革新的で独創的なダンスを次々と生み出すその活躍ぶりには、今やフラメンコ界だけでなく、世界中の現代ダンス界が熱いまなざしを注ぐ、現在、最も注目を集める旬のダンサー・振付家です。

フラメンコダンサーの両親の元に生まれ、初めてデュオを踊ったのは妊娠７ヶ月の母のお腹の中にいた時、と語るほど、生まれながらに踊ることを運命づけられていたかのようなガルバン。スペインの１部リーグのベティス（乾貴士が移籍したサッカーチーム）のオーディションを受けるほどの高い身体能力を備えたガルバンが選んだのは、サッカー選手としての道ではなく、ダンサーでした。

今回上演する『黄金時代』は 2005 年に発表された作品で、以後 13 年に渡って世界中で上演され続けてきたイスラエル・ガルバンの傑作中の傑作。そのスタイルは歌（カンテ)、ギター、ダンス（バイレ）というフラメンコで最もシンプルなスタイルを採りつつも、ガルバン特有の独創性に満ちた、フラメンコの新しい地平を切り拓いた作品です。

今やヨーロッパの現代ダンス界では常に話題の中心におり、日本でのフラメンコ・フェスティバルなどではこれまで何度も来日しているスラエル・ガルバンですが、2016 年愛知での『SOLO』『FLA. CO. MEN』までは、フラメンコ愛好家以外の目に触れることは多くはありませんでした。埼玉でも同年、イギリスの振付家・ダンサー アクラム・カーンとの共作『TOROBAKA－トロバカ』上演が予定されていながら、怪我により公演中止となりましたが、今回、満を持して彩の国に初登場。現代ダンス界を牽引するアーティストの一人として、ご紹介する運びとなりました。

イスラエル・ガルバンの名刺代わりとも言える名作中の名作『黄金時代』。フラメンコという枠を越え、ダンス界に新風を起こしつづける稀代のカリスマ イスラエル・ガルバン自身の「黄金時代」を築くきっかけとなった作品をどうぞお見逃しなく。

＊ヴァツラフ・ニジンスキー…20 世紀初等にバレエ・リュスなどで活躍したバレエの変革者で、伝説的なダンサー。天才ダンサー・振付家としてモダン・バレエの源流をつくり、振付家の時代が築かれていった。

御社媒体にて本公演をご紹介いただけましたら有難く存じます。

宣材用写真をご用意いたしておりますのでお気軽にお申し付けください。
本リリースの詳細、写真提供につきましては、担当宛てにご連絡ください。

●プレスリリースお問い合わせ

公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

事業部　舞踊担当（広報）関下景子、原口さわこ　（制作）荻原文子

プロデューサー　佐藤まいみ

Tel: 048-858-5506（事業部直通）　E メール：dance@saf.or.jp

公演概要

●上演作品

演目：『黄金時代』

演出・振付：イスラエル・ガルバン
出演：イスラエル・ガルバン
　　ダビ・ラゴス（カンテ）
　　アルフレド・ラゴス（ギター）

製作：A NEGRO PRODUCCIONES S.L.

世界初演：2005 年 2 月 26 日
　　第 9 回ヘレス・フェスティバル（スペイン）

●公演情報

日時：2018 年 10 月 27 日（土）、28 日（日）15:00 開演　（全 2 公演）

会場：彩の国さいたま芸術劇場　大ホール

前売料金（税込・全席指定）：
一般 S 席 6,000 円　A 席 4,000 円
U-25＊ S 席 3,000 円　A 席 2,000 円　＊公演時 25 歳以下対象。入場時要身分証提示。
メンバーズ一般 S 席 5,400 円　A 席 3,600 円
※当日券は各席種ともに＋500 円
http://www.saf.or.jp/stages/detail/5430

●チケット取扱い･お問合せ：

〇SAF チケットセンター 0570-064-939（休館日を除く 10:00～19:00）
[窓口] 彩の国さいたま芸術劇場（休館日を除く 10:00～19:00）
　　埼玉会館（休館日を除く 10:00～19:00）
[PC] http://www.saf.or.jp/　　[携帯] http://www.saf.or.jp/mobile/

〇チケットぴあ　0570-02-9999　【P コード：487-465】 http://t.pia.jp/（PC&携帯）
〇イープラス　　http://eplus.jp/（PC&携帯）

主催・企画・制作：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

助成：スペイン大使館 Embajada de España、文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）｜独立行政法人日本芸術文化振興会

協賛：イベリア航空
後援：インスティトゥト・セルバンテス東京、一般社団法人日本フラメンコ協会
フェスティバル/トーキョー18 連携プログラム

●関連企画

イスラエル・ガルバンによる
ダンス未経験者・初心者のためのフラメンコ・ワークショップ

日時：10 月 29 日（月）16 :00～17 :30
会場：彩の国さいたま芸術劇場
対象：『黄金時代』のチケット購入者（16 歳以上、スキル・ジャンル・経験不問）
参加費：3,000 円 ※要事前申込み
申込み受付：先着順（9 月 3 日（月）10：00 開始～9 月 25 日（火）必着）
申込み詳細 → http://saf.or.jp/arthall/information/detail/779

●日本ツアー

〇愛知公演
11 月 2 日（金）19:00 開演、3 日（土・祝）14:00 開演
会場：名古屋市芸術創造センター
料金：一般 7,000 円、U25（公演時 25 歳以下、要身分証）：3,500 円
お問合せ：愛知県芸術劇場 052-971-5609　http://www.aac.pref.aichi.jp
主催：愛知県芸術劇場
共催：公益財団法人名古屋市文化振興事業団［名古屋市芸術創造センター］
助成：スペイン大使館 Embajada de España
文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）｜ 独立行政法人日本芸術文化振興会
協賛：イベリア航空

プロフィール

イスラエル・ガルバン　Israel Galván

1973 年生まれ、セビリアのフラメンコダンサー ホセ・ガルバンとエウヘニア・デ・ロス・レジェスを両親に持つ。父に伴われ通ったタブラオ（フラメンコショーを行うバーやレストラン）やフラメンコアカデミーの中で育ちながら、1990 年より本格的にフラメンコダンサーとして活動する。
1994 年にマリオ・マヤ率いるアンダルシア舞踊団に入団。数々のコンクールで賞を総なめにし大活躍、以後、世界中から注目を集めるキャリアの始まりとなった。これまでのプロジェクトで、フラメンコ音楽の革新者エンリケ・モレンテやマヌエル・ソレールをはじめ、ロック・ミュージシャンのパット・メセニーなど、多くのミュージシャンとのコラボレーションを展開。

1998 年処女作『¡Mira! / Los Zapatos Rojos（赤い靴）』を 25 歳で発表。童話『赤い靴』にインスパイアされたこの作品は、ダンスシューズを脱ぐことができず踊り続ける、という正にイスラエル自身の物語と言えるが、そのあまりに独創的な作風にフラメンコ界に激しい賛否両論を巻き起こす一方、「天才的な作品」「フラメンコの概念を大きく覆す革命」などと批評家から絶賛を浴びた。
その後も「フラメンコ界の異端児」として、フランツ・カフカの『変身』をモチーフとした『ラ・メタモルフォシス』（2000）、『ガルバニカス』（2002）、闘牛の世界がテーマの『アレナ（砂）』（2004）、『黄金時代』（2005）、『タブラ・ラサ』（2006）、『ソロ』（2007）、聖書の「黙示録」を題材とした『El Final De Este Estado De Cosas』（2007）、フラメンコでボクシングを模した『イスラエル vs Los3000』（2010）、英国の振付家・ダンサーのアクラム・カーンとの共作『TOROBAKA』、『FLA. CO. MEN』（2014）など、これまでのフラメンコの常識を打ち破る作品を精力的に発表。最新作は『La Fiesta』（2017）。

「フラメンコ界のニジンスキー」とも評される独自の創作活動は、従来のフラメンコの観客からはもちろん、伝統的なフラメンコの世界で活動する両親からも当初は理解を得られなかった。しかし、2005 年ナショナル・ダンス賞（創作部門）を受賞。スペイン政府からもフラメンコのルーツを失わず、新しい芸術作品を生み出した創造性を高く評価されるようになる。2012 年には最優秀プロダクション部門でベッシー賞（NY）を受賞、同年発表のナチスによる虐殺を描いた『ロ・レアル』では、スペイン舞台芸術の権威あるプレミオス・マックス・デ・テアトロ賞で最優秀ダンス作品賞、最優秀振付賞、最優秀ダンサー賞の 3 冠を制す。2016 年 1 月に発表された第 16 回英国ナショナル・ダンス・アワードでは、同作品で「傑出した男性モダンダンサー」にノミネートされ、特別賞（Special Award for Exceptional Artistry）を受賞。現在パリ市立劇場およびバルセロナのメルカド・デ・ラス・フロレス劇場アソシエイト・アーティスト。

『黄金時代』舞台評

「伝統的な芸術を新たな道へ導き、煽動すべく彼が行うすべてのことは、鮮やかで観る者を圧倒する。彼の音楽、巧妙なリズム、並外れた機敏さがその生みの親だ。
ガルバンは最高のアーティストと言えよう。」

（Clement Crisp - FINANCIAL TIMES, 2011 年 2 月 12 日）

「ガルバンはフラメンコ界において真の一匹狼だ。ダルウィーシュ（イスラムで踊り狂う修道者）のようなスピン、セクシーなエネルギーと、しなやかに流れるようなムーヴメントを持ち合わせ、我々の予想を遥かに越え、燃えさかる炎のようである。
（…）彼はダンスの闘牛士のごとく、打ち震え、挑発する。」

（Joanne Savage – BELFAST TELEGRAPH, 2014 年 10 月 18 日）

「躍動するリズムはフラメンコ・アーティスト、イスラエル・ガルバンの勇壮華麗なパフォーマンスとその舞台に顕著である。(…)ガルバンの身体は打楽器となり、指はカスタネットのように、頬骨から踵まで全身でかき鳴らす。一方、足は地面を擦り掻き回し、まるで眠れぬ雄馬のようだ。たくましいスタッカートを刻む誇らしげな歩きぶりは、表情豊かなアルフレド・ラゴスのギターと、ダビ・ラゴスのカンテに伴われ、緊密な対話を交わし、そして勝負へと発展してゆく。削ぎ落とされたムーヴメントは現代的な優美さと溶け合う。

一分の隙のないジェスチャー、ナイフの刃のような鋭いスピン、ドラマチックな身体は弧を描き、舞台を疾走する。ミニマルで抒情的な動きは、なおさらそれを引き立たせる。ガルバンの感情のエンジンが突如切れてしまったかのように、突然動きを止めることすら、競馬のゴールの判定写真のごとく、我々をハッとさせるのだ。フラメンコの情熱と野性はどこまでも広がり、雷鳴のような歌声と音楽がクレシェンドするのに合わせ、彼は止まる。それはまるで宙を舞う鳥のようだ。」

（Seona MacReamoinn – IRISH TIMES, 2015 年 6 月 4 日）

© Félix Vázquez

「異端児」から「天才」へ―
イスラエル・ガルバンと『黄金時代』を知るキーワード

＊プロサッカー選手を目指すほどの高い身体能力

シルヴィ・ギエムはオリンピック出場を期待されていた体操選手からバレエダンサーとなったが、ガルバンはその高い身体能力から、セビリアの著名サッカークラブ ベティスのオーディションを受けるほどの実力も持っていた。フラメンコ舞踊家の両親の元に生まれたガルバンは、生まれる前から母親のお腹の中で踊っていた、と語るほど物心がつくずっと前からダンスとともにあった。２～３歳の頃からステージで踊っていたと言う。小さい頃はなぜ踊るのかも理解しないまま踊っていたガルバン。しかし、踊ることを運命づけられていた彼は、サッカー選手ではなくダンサーへの道を歩み、その類い希な才能ゆえに、フラメンコの枠に捕らわれない、自由な創作を目指すこととなる。

＊舞踏/BUTOH の影響

ガルバンの踊りはしばしば日本の「舞踏」からの影響が指摘される。これまで何度も来日しているガルバンは、伝説的舞踏家 大野一雄の舞踏研究所を実際に訪れたこともあるし、自身のスタジオに舞踏家を呼んでクラスを開いたこともあると言う。大野の代表作『ラ・アルヘンチーナ頌』に触れ、「大野一雄がバイラオーラ アントニア・メルセー（ラ・アルヘンチーナ）に影響を受けたという話にとても興味を惹かれた。大野のゆっくりとした動きを自分も取り入れたいと思った。あんなのは観たことがない、すばらしいと思ったよ。」

＊類い希な“コンパス”

「コンパス」は、フラメンコ特有のリズム・パターン。楽譜もなく指揮者もいないフラメンコでは、このコンパスの刻みによって、踊りとギター、歌が一体化し、フラメンコの形ができあがる。ガルバンは、フラメンコのダンサーの中でも傑出した「コンパス感」を持つ。そこから彼を「音楽家」と称した評論家もいるという。

＊ダビ・ラゴス、アルフレド・ラゴスの音楽

『黄金時代』をガルバンとともに彩るのは、ラゴス兄弟のカンテ（歌）とギター。弟のダビは権威ある賞を同時に５つ受賞するほどのフラメンコ界最高峰の歌い手。兄のアルフレドはガルバンをはじめ、一流のアーティストと常に共演を重ねる現代フラメンコ界を代表するギタリスト。シンプルな編成だからこそ、３者のクオリティの高いコンパスが活き、２人が奏でる音楽がガルバンの独創性に応えながら、その芸術をさらに高める。

＊異端児、革命児。そして「天才」へ

幼い時からフラメンコの中で育ち、やがてダンスに取り憑かれるようになったガルバンは「気が違ったように練習に明け暮れ」、数々のコンクールを総なめにする。伝統的なフラメンコの世界で賞賛を浴びながら、「もっと自由な、自分自身の踊りを生み出したい」という欲求に駆られたガルバンは、1998 年、25 歳の時にこれまでのフラメンコの常識を覆す作品を発表し、フラメンコ界に激しい論争を巻き起こす。家族ですら理解を示さなかった。しかし、ガルバンは酷評を受けようとも怯まず、既成概念を覆す創作活動を続ける。その後、2004 年発表の『アレナ（砂)』で、自身のスタイルを確立し、05 年の『黄金時代』で彼の独創性が認められることとなった。時代は彼に追いつき、それまで「異端」とされたガルバンが「天才」として認知され、彼の名はフラメンコ界を越えるまでに至る。